

理事長挨拶

学校法人 加計学園
理事長・総長 加計 晃太郎



今般、中央教育審議会では、第2期教育振興基本計画の検討が行われておりますが、グローバル化の進展や産業構造・就業構造の転換などによる大きな社会変動が進む中、新たな時代に対応できる人材の育成に関して、大学教育に対する社会からの評価はいまだ厳しく、大学教育の質的転換が強く求められています。

このため、教育振興基本計画では、「知識を基盤とした自立、協働、創造の社会モデル実現に向けて、学生の主体的な学びを確立する」ことを成果目標に掲げ、そのための具体的方策として、大学教育の質的転換や大学等の質保証の確立を図るとともに、高大接続改革など、柔軟な教育システムの構築が進められています。

大学においては、三つのポリシーに基づいた教育の充実に向けたPDCAサイクルの確立を進めることが必要とされ、本学園においても従来の入学者選抜及びカリキュラム、学位授与について点検・見直しを行い、教育の質を担保して参りたいと思います。

また、今年度より岡山理科大学及び千葉科学大学に新学長が就任され、新しい執行部のもと、図書館機能の強化とアクティブラーニングの導入により学生の主体的な学びを促進するなど教育改革と特色ある研究の重点化を図って参ります。倉敷芸術科学大学においては、倉敷市との連携による産学連携を通じCOO事業を継続し、地域課題に取り組むアクティブラーニングを実践し教育の充実に努めて参ります。

中学校、高等学校については、中央教育審議会の高大接続システム改革にて求められている「生徒一人一人が義務教育を基盤として『学力の3要素』を身につける」ことを目指し、SSH事業を展開しながら学習・指導方法の充実と教員の資質向上に努めて高等教育に繋げて参ります。

専門学校においても教育の質保証の確立を図りつつ、実践的な職業教育により社会で即戦力となりうる人材の育成に努めて参ります。

さらには、既存の学部学科における教育改革はもちろんのこと、平成29年度には岡山理科大学に経営学部開設を目指し、倉敷芸術科学大学においても新たな学部設置を構想検討中であり、地元地域との連携によって開かれた大学、開かれた学園づくりに向けた取り組みを積極的に推進することで地域貢献、社会貢献できる人材育成をして参りたいと存じます。

現代は、時代と社会の変革が日進月歩を通り越え、加速度的に進んでおります。過去に成果が得られたのだから将来に渡っても同じ成果が得られるであろうと考えるような伝統主義は、こと教育現場においては固く戒めねばならないことであり、折に触れ申し述べておりますように、常に時代の流れを見据え、「新しい社会と時代に貢献できる人材養成」を今後も推進していきます。

以上のことを念頭に、新年度も学園ならびに各設置校におきましてさらなる教育事業を展開しつつ、魅力ある学園づくりに努めて参ります。